

目指す学校像	1 規律を重んじながら生徒一人一人の個性を伸ばす，創意と活力に満ちた学校 2 地域の様々な教育的ニーズに応える，生徒，保護者及び地域住民に広く信頼される学校 3 生徒一人一人の興味・関心，能力・適性に応じた進路の実現ができる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>1 学力や学習意欲に関して多様な生徒に対応するため，特別進学クラスの設定や少人数による授業展開（数学・英語）を実施している。また，生徒主体による中学校での出前授業をはじめ，地域連携活動を通して生徒の自己肯定感・有用感を高める指導を推進している。さらに，各種検定試験の全員受験を実施し，3年次における資格記入率（就職履歴書）は100%となるなど，一定の成果をあげている。</p> <p>2 進路希望は，就職から国公立大学進学までおり，生徒一人一人の希望は多岐にわたっている。就職では，学校を通しての就職内定率が100%を超えるなど，高い実績をあげている。進学については，特に医療・看護系学校への希望が年々増えているが，組織的かつ継続的な取組により全員の進路実現を果たした。</p> <p>3 積極的な指導を通して生徒の規範意識は高まっている。また，昇降口指導や服装指導を全職員で継続した結果，チェックを受けた生徒数は，年度末には，年度当初の4分の1程度に減少した。また，家庭と連携した指導と教職員全体の指導実践をさらに一致させ，指導体制をより強固にしている。</p> <p>4 生徒会役員の定例会を毎週1回行うことができおり，活発に活動できている。また応援団，文化祭実行委員会に多くの生徒が積極的に参加するようになった。ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。しかし一方で，部活動加入率が3割程度しかない状況である。</p>	基礎学力の向上と個に応じた学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 授業に臨む基本的な態度を育成し，学力の定着を図る。また，主体的に学ぶ意識を育成する。 英語・数学での習熟度別学習指導の工夫改善に努め，個別指導の充実を図る。 生徒に興味・関心を持たせる授業を工夫し，知識・技能の習熟を図る。また，各種検定試験の合格を目指す。 	B
	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪・服装・遅刻指導について，日常的・継続的な生徒指導を徹底する。 保護者に対して，様々な機会を通して規則・規律の尊重についての理解を求める。 生徒指導に対する職員間の共通理解を深め，一致協力して指導にあたり，充実させる。 授業や学校行事で5分前を意識した行動に努める。 	B
	進路希望の実現と指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 4年制大学進学希望者に対する指導方法について再考し，4年制大学進学者の増加を目指す。 インターンシップを実施し，進路について自ら考え主体的に決定できる力を育てる。 「産業社会と人間」の時間の一層の充実に努め，3年間を見通した進路シラバスに基づく指導を実践する。 模擬試験や資格取得を推進し，進路希望の実現を図る。 	A
	地域と連携した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域社会と連携した，開かれた学校づくりに務める。 「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」を通して，地域貢献，地域連携，地域共生を目指す。 	A
生徒の主体的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 部活動へ積極的に参加し，学校生活への興味・関心を高める。 学校行事や生徒会活動に積極的に参加できる工夫をする。 勤労体験やボランティア活動を通して心の育成を図る。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題			
教科指導	①基礎学力の定着を図る。	・授業に臨む基本的な態度を育成する。	B	A	・授業を今以上にスムーズに開始する。		
	②学習指導法の工夫を図る。	・定期的に授業公開を行い、指導力の向上を目指す。	A		・授業の相互参観を活発にする。		
教	国語	①個別指導を充実し、大学進学に対応できる学力を育成する。	・3年次に小論文を進路指導部・他教科と連携して指導できる体制を作る。	B	・進路指導部や他教科と連携した指導をする。		
		②基礎基本の定着をはかり、「分かる」授業を展開して生徒の興味関心を高める。	・国語研究の授業と放課後の個別指導を通して、様々な進学希望に対応できるようにする。	B	・1年次からの強化が必要である。		
	地歴公民	①基礎学力の定着を図る。	・授業に臨む基本的な態度を育成するとともに、基本的な事項や時事問題についてどの生徒も理解できるように、テーマや新聞などの教材を工夫する。	B	B	・漢字の小テストの継続をし、漢字検定の合格者を増やす。	
		②個に応じた指導を行う。	・センター・一般入試対応や歴史能力検定試験、就職試験対策などの課外を行うとともに、授業中も机間指導を積極的に行い、生徒の実態に応じた指導を展開する。	B		・言語活動や図書室利用の充実と相互授業参観の定期実施をする。	
		③地域に対する理解を深め、郷土愛の精神を育成する。	・授業に地域の歴史・地勢・風土などの話題を取り入れることで、地域に対する理解を深め、地域を大切にする姿勢を育てる。	C		・主体的・対話的で深い学びの実現に資する教材・教授法の構築	
	数	①基礎学力の定着を図る。	・単元の導入やまとめに既習事項の確認を行い、生徒の理解度に合わせた指導をする。	A	B	・基礎学力定着の指導の強化	
			・日頃から家庭学習用のプリント課題を作成し、学習習慣の定着をさせる。	B		・長期休業以外での課外の強化	
			・マナトレを活用し、既習事項の学び直しをすることで、知識の漏れをなくす。	A		・継続と繰り返しによる知識定着	
	学	②生徒に数学を学ぶ意義を実感させ、学ぶ意欲の向上を図る。	・授業で学習した知識を活用する活動を定期的に取り入れ、数学の有用性を実感できるようにする。	C	B	・数学実験の実施	
			・少人数指導により、個々に応じた指導を行う。	A		・少人数指導の継続	
③入試に対応できる学力の定着を図る。			・放課後や休み時間を利用した課外を通して、より難易度の高い問題に触れる機会をつくる。	B		・進学課外参加者を増やす。	
科	理科	①基礎学力の定着を図る。	・基本的な知識や概念を授業などで繰り返し取り上げ、小テストや演習問題で定着を図る。	A	B	・基礎学力定着のための指導の強化	
			②大学進学に対応した指導の充実を図る。	・授業展開や実験などを工夫して興味・関心を持たせ、個別指導を充実させる。		B	・観察・実験の機会を増やす。
			・進学課外や宿題等を生徒に課し、学習する習慣を身に付けさせる。	B		・定期的な進学及び基礎力課外の実施	
	保健体育	①社会生活で必要とされる知識の定着を図る。	・卒業後の社会生活を送るうえで必要とされる基礎的な知識を、繰り返し取り上げ定着を図る。	B	B	・実生活に生かすことのできる知識を身に付ける。	
			②学習意欲が高まるような指導の工夫を図る。	・視聴覚素材を効果的に使用したり、生徒にとって身近な話題や問題を積極的に取り上げ、生徒の興味関心を促す。		B	・視聴覚教材を活用し思考力や表現力を養う。
			③安全の確保と技能・体力の向上を図る。	・体育時の服装を徹底し安全を確保すると同時に、技能を身に付け体力の向上を図るための資質・能力の育成を図る。		B	・熱中症対策の予防・対応をする。
	芸術	①芸術への愛好心を育む。	・芸術的活動を通して、感性と教養を向上させ、実生活の中で表現されたものへの気付きや感性を高める。	A	B	・芸術への寛容な姿勢を育む。	
			②基礎表現技術を身に付ける。	・可能な限り個々の技術的レベルに沿って、表現体験の実現を目指す。		B	・興味や感動を共有する積極性を育む。
			③個性豊かな表現力を伸ばす。	・形や指示に沿うのではなく、意思と思考から発せられた表現に、前向きに取り組む。		A	・表現する意識と技術を伸ばす。
	外国語	①分かる授業を展開する。	・個々の理解度を十分に計りながら、習熟度別授業を行うことで基礎基本の定着を図る。	A	B	・他教科の内容との連携	
・必要に応じてT・Tを取り入れ、個別に対応することで分かる授業を展開する。			A	・教科書以外の基礎力を高める教材の使用を継続し、効果のある活用方法を検討する。			
②英検の受験を奨励する。			・授業を通して生徒の受験を促し、希望者に対して課外指導を実施する。また二次試験に対応できるように指導する。	A		・英検で能力が試される4技能を伸ばすために、授業における生徒主体の活動内容を検討する。	
家庭	①家庭生活を主体的に営むための基本的な知識と技術を育む。	・授業においても対策問題を取り入れることで、苦手意識を強く持たせないよう工夫する。	B	B	・年次間の連携を密にし、3年間を見通しての指導内容を検討する。		
		②家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	・上級学校受験希望生徒のニーズに応じた、より高度な授業を展開する。		B	・主体者としての生徒の実態を考慮する。	
		・基礎基本の定着を図り、更なる実力向上のため、放課後などに課外授業を行い受験対策を図る。	B		・T・T間での連携強化に努める。		
		①家庭生活を主体的に営むための基本的な知識と技術を育む。	・スモールステップの授業を取り入れる。		B	・家庭経営者としての意識の醸成を図る。	
		②家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	・実習においてT・Tの指導を行う。		B	・生徒の自主性を育む。	
		・ホームプロジェクトにより家庭生活の改善を図る。	A				
		・学校クラブ活動を通して自分たちに可能な地域貢献を行う。	A				

教	情報	①情報活用の実践力を養う。	・協働的な作業を通して解決できるような課題を設定し、問題解決力を養う。	B	B	・自ら課題を設定する作業を増やす。 ・新学習指導要領を考慮した内容を検討する。	
		②情報の科学的な理解を深める。	・自ら課題を見つけ、解決へ導くことができるような課題を設定し、主体的に学ぶ態度を養う。 ・情報システムやメディアリテラシーについて、プリント学習や実例の提示を通して理解させる。 ・情報セキュリティについて、映像教材や体験実習を通して理解させ、危機意識を高める。	B A A			
	農	①実践教育を通して、生徒の興味関心を農業に引きつける。	・実験実習をより工夫して、生徒が自主的に取り組む授業を目指す。 ・生徒の教材となる農場運営を心掛ける。	A B	A	・座学も工夫する。 ・教材のさらなる工夫 ・プロジェクト活動の活性化 ・引き続き、高取得率を上げる。 ・このまま継続する。 ・このまま継続する。	
		②個々の生徒に応じ、農業教育における活躍の場を設ける。	・農業クラブ活動を通して、生徒の個々の能力を向上させる。(プロジェクト活動) ・農業技術検定等の資格取得を目指す。	B A			
		③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。	・農場のHPをより充実させ、地域に情報を発信する。また、更新をこまめに行う。 ・地域の幼小中学生等に農業体験学習の場を提供する。また、地域の環境美化等に協力する。	A A			
	工業	①規律ある態度の育成をする。	・実習服の正しい着用の徹底、実習を受ける姿勢、実習に取り組む基本的な態度を育成する。	A	A	・実習服の正しい着用の徹底 ・時間を効率的に使える内容の選定	
		②学習内容の厳選を行う。	・実習内容・方法の再構築を行う。	B			
	科	福祉	①基礎的な学力の向上と実践的な態度を身に付ける。	・社会福祉や介護の基礎的・基本的な知識や技術を総合的に学ぶ。 ・校外での介護実習を通して、より実践的な態度を育てる。	A A	A	・福祉の科目間のつながりを意識 ・介護実習を活用した授業の工夫 ・教材を工夫した授業内容の充実 ・生徒が主体的に考える授業改善 ・校内実習を充実した内容への改善 ・専門の講師による学習機会の設定 ・全員が取得できるサポート体制 ・実習先への就職率を上げる。 ・地域との交流の充実
			②一人一人の能力に応じた指導の工夫と改善を図る。	・生徒の能力と実態に合わせて、授業を工夫・改善する。 ・主体的に学習する態度を身に付け、課題解決能力を形成する。	B B		
			③介護従事者としての専門的な知識・技術を習得し、育成する。	・対人援助を行う際のマナーについて生徒自らが認識し、あるべき姿を考えられるようにする。 ・福祉や介護について、看護の分野をなどから専門的な知識・技術の習得をする。 ・介護福祉士実務者研修を全員取得する。	B A A		
福		④地域行事等に積極的に参加し、地域に還元できる人材を育てる。	・学校間交流等の行事への参加や実習・就職を通して、地域との連携を図る。 ・「生徒生き生き育成プラン」の事業を通して、地域との連携を図る。	A A	A	・継続して推進する。 ・中学校での参観を推進する。 ・教育課程編成を推進する。 ・毎年度必要に応じ検討する。 ・組織的な取組を推進する。 ・継続して実施する。	
		①学習環境の整備および授業改善の推進を図る。	・授業の振替を確実に行うことにより授業時間を確保する。 ・各教科と連携を図り、授業参観や研修を企画し、情報交換や授業改善に取り組む。	A A			
教務	②教育課程や校内諸規程の見直しを検討する。	・教育課程検討委員会等により、教育課程上の問題点を共有し解決策を見出す。 ・校内諸規程の見直しを継続して進める。	B A	A	・継続して実施する。 ・職員間で温度差を解消する。 ・充実させることができた。 ・原付免許取得者に対する講習会を実施すべきである。		
	③地域との連携を推進する。	・「生徒生き生き育成プラン」事業をもとに、地域との連携を充実させる。 ・中学校での出前授業や作品展を拡充させ、特色ある本校の教育活動を広報する。	A A				
	生徒指導	①生徒の規範意識を高めると共に、基本的な生活習慣の向上に努める。	・生徒との信頼関係の構築を重視し、面談や声かけなど、心に響く指導を展開する。 ・規範意識や基本的な生活習慣の向上と定着を図るため、職員全員で積極的な声かけを行う。 ・ルールやマナーを尊重する態度を育成するため、職員間、職員と保護者の連携体制を強化する。			A B B	B
②自他の生命を尊重する精神を養うと共に、豊かな心を育成する。		・自他の生命、尊厳を尊重する精神を養うため、HR、年次集会や各種講話の充実を図る。 ・交通マナーや交通安全の意識の向上を促すため、定期的な登下校指導、自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施する。	A B				
進路指導	①生徒個々に適した進路の選択、決定、実現を図る。	・年次と連携し、インターンシップを実施する。 ・総合的な学習や「産業社会と人間」の授業との連携を深める。 ・地域の事業所等と連携した講演会を実施し、生徒の勤労観、職業観を育む。 ・地域の大学と連携し、サマースクール(学習合宿)を実施する。	A A A A	A	・現在実施している進路関係行事の意義と期待される効果、実施時期等について精査し、より効果的な3年間の進路指導を体系化する。 ・教科と連携を強め、教科主導型の進路指導を体系化する。 ・進路指導部の業務内容を再編し、各部門が担う業務を更に具体化・明確化する。		
		②生徒個々の進路希望に応じた学力の向上を図る。	・年次、教科と連携し放課後および長期休業中における進学課外、個別指導の充実をはかる。 ・生徒の学力向上および資格取得等を促す指導の充実を図る。			B A	
	③進路希望実現のための指導方法を確立する。	・進路担当の役割を明確化し、組織的な指導体制を構築をする。 ・年次ごとの取組を情報発信し、次年度へ継承できる体制を構築する。	B A				

特別活動	①クラスマッチや文化的な行事の充実に努め、生徒一人一人が積極的に活動できるようにする。	・生徒会定例会を毎週開き、本部役員の意識向上と資質の向上を図る。	A	A	・計画的・継続的な定例会の実施
	②部（同好会）活動・委員会活動の活性化を図る。	・江陵祭実行委員・クラスマッチ実行委員・応援委員等について、本部役員以外の多数の生徒が運営に参加し、主体的な活動ができるように支援する。	A		・計画・実行・振り返りを自主的に進めるような指導の工夫
	③地域行事へ積極的に参加する。	・部活動説明会、見学会等を実施し、生徒が積極的に部活動などに加入・参加できるようにする。	B		・部活動説明会・見学会の工夫
		・年3回の各種委員会を設定し、目標設定・計画立案・反省・評価ができるようにする。	B		・委員会活動の活性化の検討
保健厚生	①学校環境の整備、美化に努める。	・地元自治体と連携し、自治体主催の行事や「生徒活き活き育成プラン」等の事業を通して、地域の行事へ積極的に参加できるようにする。	A	B	・ボランティア委員を中心とした幅広い生徒への呼びかけ
	②健康について意識の高揚を図る。	・ゴミの分別回収、清掃分担区域の清掃の徹底を図る。	B		・大掃除の内容の精査
		・環境美化委員会の活性化を図る。	B		・近隣地域の清掃活動の計画
	③防災、安全衛生点検に努める。	・身体測定、健康診断を一斉実施し、「保健だより」による情報提供をする。	A		・継続する。
図書	①図書館の利用頻度を高める。	・保健委員会の活性化を図る。	B	B	・生徒自ら考え行動する。
	②図書委員会の活性化を図る。	・事故の未然防止を図るための避難訓練および校舎内外の点検、水質検査を実施する。	B		・衛生委員会との連携
		・学校図書館の存在を知ってもらうための広報活動を実施する。	B		・新着図書・ガラスケースの展示の工夫
	③蔵書の管理を図る。	・教職員、生徒が興味関心を持つ書籍を購入する。	B		・リクエスト用紙の設置
渉外	①PTA活動の充実を図る。	・書籍資料の点検、整理整頓を心がける。	A	B	・配架・見出しの工夫
	②教育環境の整備・充実を図る。	・「図書館便り」の作成し、情報提供をする。	B		・担当者への確認
		・コンピュータによる蔵書管理を進める。	B		・蔵書整理の効率化
	③会員相互の親睦を図る。	・書籍資料の受入、除籍を速やかに行う。	B		・利用しやすい環境作り
情報	①校内ネットワーク環境を整える	・PTA会員による主体的な運営を行い、会員の行事への参加率を高める。	B	B	・参加率を高めたい
	②学校支援システムのスムーズな運営を図る。	・家庭と学校との密接な連携を目指し、会報誌の発行や学校行事等への積極的な参加を呼びかける。	A		・このまま継続
		・登校・校外指導を通じ、生徒の規範意識、基本的生活習慣の定着を図る。	A		・このまま継続
	③ホームページの定期的な更新を図る。	・生徒・保護者からの声を聞き、よりよい校内環境を整えられるよう努める。	B		・保護者の声が届きやすいよう工夫する。
1年次	①基本的な生活習慣を確立する。	・興味・関心の高い研修を実施することで、多数の参加者を募り、会員相互の親睦を図る。	B	A	・参加率を高める。
	②社会性の向上を図る。	・同窓会・後援会との連絡を密にし、学校行事等への一層の理解と協力を得る。	B		・より連携をとる。
		・善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	B		・過去の情報機器やサーバ室の資料、PC管理台帳等の整理
	③進路目標を設定し、基礎学力の定着を図る。	・共用の情報機器の所在や必要性の有無などを整理し、担当の職員が情報を共有できるようにする。	B		・USBメモリの運用方法検討
2年次	①基本的な生活習慣を確立する。	・ネットワークトラブルに迅速に対応する。	A	A	・学校ホームページの更新方法検討
	②社会性の向上を図る。	・学校運営支援システムを中心とした校務のスムーズな運営を心掛ける。	A		・学校ホームページの更新方法検討
		・学校運営支援システムの全職員へのシステムの理解、運用方法の徹底を促す。	B		・新校務支援システムの準備
	③進路目標を設定し、基礎学力の定着を図る。	・ホームページの定期的な更新体制を確立し、地域への情報発信の要とする。	B		・担当者が変わってもホームページの更新がスムーズにいくような体制を確立する。
3年次	①規律ある生活習慣を確立する。	・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的生活習慣の確立を図る。	A	B	・遅刻・欠席過多など規範意識の低い生徒への日常的・継続的な指導
	②個に応じた学力の伸長を図る。	・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるよう、常に環境改善に努める。	B		・修学旅行やインターンシップを通じた自主的・実践的な態度の育成
		・周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	A		・進学対象課外の充実
	③自己実現のため努力する力を育成し、進路希望の実現を図る。	・日々の授業を大切にし、自ら考え、自ら学ぶ姿勢や意識の向上を図る。	B		・ポートフォリオの有効活用
3年次	①規律ある生活習慣を確立する。	・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	B	B	・継続指導で更なる改善を目指す。
	②個に応じた学力の伸長を図る。	・挨拶、正しい標準服の着用、時間の厳守等、積極的に声かけを行う。	A		・清掃を徹底させる。
		・学校が落ち着いて生活できる場となるよう、常に環境の改善に努める。	A		・生徒の動向に注意する。
	③自己実現のため努力する力を育成し、進路希望の実現を図る。	・面談や集会を通して適切な意志決定や行動選択をする能力を養う。	B		・自己中心的な生徒の指導
3年次	①規律ある生活習慣を確立する。	・様々な考え方や意見を尊重しつつ、他と協力出来る態度を身につけさせる。	B	B	・進路実現を強く意識させる。
	②個に応じた学力の伸長を図る。	・授業や課外を通して学習に取り組む姿勢や基礎学力の向上を図る。	B		・具体的な目標を設定させる。
		・検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	B		・休日実施の資格試験への対応
	③自己実現のため努力する力を育成し、進路希望の実現を図る。	・個人面談などを通じて個々の希望を十分に把握し、適切な進路指導を行う。	B		・進路指導部との連携強化
※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった					